

【ご取材のご案内】

「ダイアログ・イン・ザ・ダーク showcase @ 佐賀県立盲学校2025」

11月21日(金)～23日(日・祝)に開催

— 視覚障害者が案内する“暗闇の体験”を通じて、多様性と相互理解を育む3日間 —

特定非営利活動法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ(佐賀県唐津市、代表理事:志村季世恵)は、2025年11月21日(金)～23日(日)に佐賀県立盲学校(佐賀市天祐)にて、完全に光を遮断した暗闇の中で人と人との関わりを体感するソーシャルエンターテインメント「ダイアログ・イン・ザ・ダーク showcase in 佐賀県立盲学校2025」を開催いたします。

本プログラムは、佐賀県が「障害者月間(11月15日～12月14日)」にあわせて実施する県民体験事業の一環として、視覚障害者スタッフが案内役を務める“暗闇の体験”を通して、視覚障害への理解とともに、多様性や相互理解を深めることを目的としたプログラムです。

「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」の佐賀県での初開催は2015年ですが、県内盲学校では初めての開催となります。視覚障害のある生徒や学校関係者、地域の方々が暗闇を体験する新たな試みとなりますため、ぜひご取材をご検討いただけますと幸いです。

【開催背景】

今回の開催は、視覚障害のある人々が学ぶ盲学校を舞台に、地域住民が「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」を体験することで「障害のある人となない人が自然に交流できる場」を創出することを目的としています。暗闇の中では、視覚の有無に関係なく、誰もがフラットに協力し合うことが求められます。体験を通して、「支える」「支えられる」という関係を越え、新たな共生の形を感じ取っていただくことを目指しています。

また、開催期間前の11月19日(水)には盲学校の生徒たちと、“暗闇のエキスパート”として社会で活躍する視覚障害者スタッフとの交流も予定しています。視覚障害の”先輩”との対話を通して、職業の選択肢の幅やキャリアの可能性を知り、自らの未来を考えていただくきっかけを創出します。

【ダイアログ・イン・ザ・ダークとは】

視覚障害者の案内により、完全に光を遮断した”純度100%の暗闇”の中で、視覚以外の様々な感覚やコミュニケーションを楽しむソーシャル・エンターテインメントです。

1988年、ドイツの哲学博士アンドレアス・ハイネッケの発案によって生まれ、これまで約50カ国で開催され、900万人を超える人々が体験しました。日本では、1999年11月の初開催以降、これまで30万人以上が体験しています。体験者からは、「近くの人への信頼が増していくのがわかりました。見える世界でも、そんな助け合いができるといい」(40代・女性)、「しょうがいがある人も、ない人も、しゃべったりきいたりするとなかよくなれる」(小学生)などの声が寄せられています。現在、常設会場としては、東京・竹芝のダイアログ・ダイバーティミュージアム「対話の森」で開催中。

<https://did.dialogue.or.jp/>

【開催概要】

日程: 2025年11月21日(金)～23日(日・祝) ※1日6回実施

会場: 佐賀県立盲学校 寄宿舎棟2階(佐賀市天祐1丁目5-29)

対象: 小学生以上(小学1～4年生は保護者同伴)

体験時間: 約70分

参加費: 無料

定員: 各回16名(1グループ8名×2グループ)

参加者数: 約300名(予定)

申込方法: 事前申込制・先着順

公式サイト: <https://didsaga.dialogue.or.jp/2025did>

主催: 佐賀県

受託・運営: 特定非営利活動法人 ダイアログ・ジャパン・ソサエティ

★盲学校生徒と視覚障害者スタッフとの交流プログラムも実施

11月19日(水)には、佐賀県立盲学校の生徒と「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」の視覚障害者スタッフによる交流プログラムを実施予定です。視覚障害のある生徒が自らの可能性を広げるとともに、未来を考えるきっかけを創出します。

日時: 11月19日(水) 13時30分～14時30分

【ご取材のお願い】

ご取材を希望される場合は、事前に下記連絡先までお問い合わせください。体験中の撮影は制限を設けさせていただいておりますが、参加者・アテンドへのインタビュー等も個別に調整可能です。

【本件に関するお問い合わせ】

特定非営利活動法人 ダイアログ・ジャパン・ソサエティ 広報

担当: 関川・脇本

E-mail: press@dialogue-japan.org 広報直通: 080-4123-4334